10月12～14日 東京ビッグサイト

TOKYO PACK 2022

目標上回る規模で開催

日本包装技術協会

日本包装技術協会は7月21日、御茶ノ水ソラシティ（東京）で、主催する「TOKYO　PACK2022（2022東京国際包装展）」について記者会見を行った。「新時代パッケージここに集う！―未来のために機能進化と使命―」をテーマに、10月12～14日の3日間、東京ビッグサイト東1～3および東6ホール（東京・有明）で開催する。2カ月半あまりに迫り、改めて実行委員会が同展への意気込みを語るとともに、概要や出展規模、見どころなどを紹介した。

藤田 実行委員長

藤田一浩実行委員長（東洋インキ執行役員）は、「今回、TOKYO PACK実行委員会は、長引くコロナ禍でリアル開催という難題に直面しながらのスタートとなった。従来、本展は東京ビッグサイト東展示棟1～6ホールを使用し、会期4日間で開催してきたが、コロナウイルスの市中感染状況、出展者への事前アンケートの結果、6ホール使用から4ホールに変更、感染拡大を防止するために会期3日間にて行う。長引くコロナ禍の影響で残念ながら出展を断念した企業もあるが、一方でこの時節だからこそ、新製品を来場者に見てもらいたいという新規出展も多数迎えることができた。開催規模はお陰様で実行委員会の目標を上回る規模で開催することとなった。海外から見ても、主要な包装展示会のひとつとして、位置付けられており、内容面でも来場者のあらゆるニーズに十二分に応えることができる。同時に出展者側からのまだ届いていない包装分野での多様な価値を来場者と共有できる展示会となると期待している。今後、実行委員会としてコロナ感染拡大防止を徹底しながらTOKYO PACK2022という出会いの場に多くの皆様にお越し頂き、安心して会期を過ごして頂けるように受け入れ準備に尽力していく」と話した。

前回は２０２１年２月、緊急事態宣言下での開催だった

日本包装技術協会の越野滋夫顧問は「本展は1966年の第1回以来、隔年で開催、今回で29回目となる。半世紀にわたり出展者の支援・協力によって、我が国の包装産業そして包装技術の発展とともに歩んできた。また、我が国最大の総合包装展として著名であり、TOKYO PACKというブランドとして毎回海外の来場者から注目を浴びて開催してきた。前回は東京オリパラの影響で開催時を変更し、昨年2月、あまり良い記憶ではないが、緊急事態宣言の中、苦しい開催となったが、出展者の力強い支援によって中止することなく実行できた。我が国の包装産業発展、振興のため、何よりも様々な包装分野でのユーザーの問題解決に対して、有効な製品、ソリューションをオンラインではなく、来場者と出展者の対面・交流による展示会という形での開催を使命として諸準備を重ねてきた。幸いにして今般、政府・行政当局も昨年とは違い、国民への行動規制を取らず各種のイベント、展示会の入場規制については緩和されている。一方で第7波といわれる感染拡大が国民生活に不安を落としているのも事実。私たちの希望的観測ではあるが、ひとつの夏風邪の流行と把握し、10月の開催時にはコロナ禍が少しは落ち着いていることを期待したい。我が国包装産業の総力を結集して本展を開催し、国民生活に資するイノベーションや包装、物流産業界の新たなビジネス創出と拡充の機会となり、我が国の包装産業の発展に寄与できるように祈念している」と話した。

開催時間は3日間とも10～17時（9時半から来場登録受付開始）。入場料は千円（来場登録券・WEB来場事前登録者は無料）。

コロナ感染防止対策として▽マスク着用▽検温実施▽来場登録情報等HPにて開示▽ホールごとの最大収容人数超過を防ぐため、二次元コードでの入退館管理―はじめ徹底する。

併催イベントとして「2022グッドパッケージング展」「2022木下賞受賞作品展」「CLOMAパビリオン」「パッケージデザインパビリオン」など。

初日の基調講演はじめ、各種セミナーも連日開催、出展会社による最新技術セミナーでは、レンゴー、王子コンテナー、クラウン・パッケージといった段ボール各社も発表する。

出展者数は、6月29日現在で395社（団体）、1598小間。包装資材・容器、包装機械、印刷・包材加工機、食品・医薬品加工機械、検査・計量・環境関連機材、包装デザイン&コミュニケーションサービス、次世代テクノロジー、包装・物流ソリューションなどの分野が一堂に会する。

紙器・段ボール関連企業では、レンゴー、クラウン・パッケージ、王子ホールディングス、日本製紙、ザ・パック、サクラパックス、新江州、横浜リテラ、特種東海製紙、大日本印刷、凸版印刷、東洋製罐グループホールディングス、旭化成、東洋インキ、日本製図器工業、ACS、ダックエンジニアリング、シンエイグループ・FLEX、オーシャンテクノロジー、渡辺護三堂、日本HPなど、多数出展を予定している。

加えて、来場できない人に向けて、WEBにて出展各社のバーチャル展示会や、出展製品動画ギャラリーなども準備している。

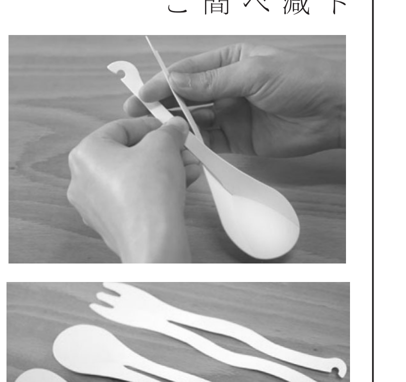
高橋型精

「編む」紙製食器を開発

飲食現場の負担軽減

抜型および関連加工メーカーの㈱高橋型精（山形市）は、強度とデザイン性を両立させた紙製食器「Amu（アム）」＝**写真**＝を開発した。

耐水性など強度に優れたコート紙をベースに、持ち手となる柄部分を二股になるよう打抜いたもので、スプーンとフォークをラインナップ。柄部分を複数回ねじり、フック形状の部分で止めることでスプーンまたはフォーク形状を構築、ねじり形状が構造上の強度を向上させ、紙でも使用に十分耐える性能を実現した。シート状で飲食店など現場に納入出来るため、輸送コストや保管スペースを削減するだけでなく、食べる前に利用者が一手間かけ食器を「編む」ことで食事の楽しみを演出、使用後は生分解性に優れる可燃ごみとして廃棄でき、食器洗浄にかかる水、洗剤、現場負担などほぼゼロ化した。



同製品は世界的にプラスチックごみが問題となる中、環境や地元経済に貢献できるよう、地元芸大を卒業したデザイナーと共同で、強度やデザイン性に優れた紙製品として開発。テスト参加者からは「強度があり、汁物が染みない」「ねじる動作で食事のワクワク感がある」など高い評価が寄せられ、現在意匠および特許を出願している。

同社では「環境への貢献だけでなく、抜型という表になかなか出ないモノの価値を知ってほしかった」「就労継続支援事業所としても、販路を広げ仕事を増やし、障碍者の賃金向上に繋げたい」など意欲を述べている。

循環型社会形成に寄与

オンライン全体会議

回収率向上が課題

LL研

LL紙パックリサイクル推進研究会（LL研）は7月19日、オンラインで「会員全体会議」を開いた。アルミ箔等を容器内部に貼って、主に液体など内容物の長期保存を可能にするLL紙パックだが、剥がして分離する手間などからリサイクル率が伸び悩んでいる。この課題に対し、対外的なアピールを強化して一層の認知拡大活動を進めることを再確認した。

開会の挨拶で、5月20日に選任された別所孝彦座長（キリンホールディングスCSV戦略部主務）＝**写真**＝がLL紙パックの回収・リサイクル向上および同会発展のため尽力すると抱負を述べた。冒頭で「私は、これまで十年以上にわたりキリンビール、キリンビバレッジで工場のエンジニアとして製造設備の設計や導入、省エネ、排水処理など、あらゆることに尽力してきた」と自己紹介。

新会員に向けて、また研究会の意義を再確認するため、改めて同研究会および基本方針等にも触れて解説した。LL紙パックのLLとは、ロングライフの略で、70%以上の再生可能資源を活用しながらポリエチレンやアルミ箔の長所を活かし、紙容器でありながら数カ月の品質保持期限を実現し、高度な市場ニーズを満たす容器である。LL紙パックの販売量は国内で販売されている飲料用紙容器の約4分の1を占めている。

ただ一方で、回収率が年々下がっていることが大きな課題とみている。アルミ付き紙容器は、アルミなしに比べ、およそ半分の回収率にとどまっている。

LL研では、これらの問題を解決するために立ち上げられた。活動目標として、「資源・エネルギーの有効利用を図り、循環型社会の形成に寄与することを目的に、LL紙パックのリサイクルについて調査・研究および会員間の啓発を行うこと」を掲げている。07年に印刷工業会液体カートン部会内で同紙パックについての研究会を、そして翌08年に事業系を対象にLL研が発足した。09年には古紙回収業者と製紙メーカーも入会し28社・団体が加盟。13年には家庭系も対象に加え、現在（22年）は32社・団体となっている。

昨年度の主な活動実績は、21年6月の会員全体会議（オンライン）をはじめ同12月エコプロ出展協力、22年3月包装材料セミナーで講演、同月に情報共有化勉強会などを行った。施設研究会は中止した。WEBサイトやリーフレット等を通じて情報発信にも注力している。

会議内では、これら活動報告に加え、会計報告なども行われ、他団体との協力や回収拡大ポスター作成など今年度の事業計画案等も挙げられ、参加会員各社の自己紹介の時間も設けられた。

閉会の挨拶は、印刷工業会の飯島由紀専務理事が「印刷産業においても環境対応は大きなテーマであるが、LL研は啓蒙・調査活動等を通じてリサイクルネットワーク構築、拡充に大きく貢献している。今後、古紙価格や国内リサイクル環境の変化、コロナ禍による消費者の行動変化なども懸念されるが、これまで積み重ねてきた経験と実績でより一層社会貢献していただきたい。さらなる発展を祈念している」とした。

小森、大幅な黒字化

23年3月期第1四半期

国内オフ機好調

小森コーポレーションの23年3月期第1四半期連結決算は、売上高が前年同期比3・0%増の191億8600万円、営業利益が2億5千万円（前年同期比は4億1800万円の営業損失）、経常利益が12億6500万円（同1億2800万円の経常損失）、純利益が9億7200万円（同9200万円の純損失）と黒字化した。

地域別では、日本市場の売上高は同3・6%増の46億9600万円。

オフセット枚葉機の受注はROI提案を中心としたアドバンス機の販売促進効果などによって大幅な増加、輪転機・証券印刷機も受注高を増やした。一方で、部品供給不足から受注から納入までの期間が延びていることが売上の伸長に影響した。

北米市場の売上高は同33・5%増の16億9900万円。

アフターコロナの経済活動の正常化で、景気回復基調が継続、前年同期を上回る受注状況。為替変動の後押しもあった。

欧州市場の売上高は同20・1%減の46億2千万円。

地政学リスクの影響はあるものの、経済活動の正常化に伴い、商談の引き合いが強い状態。一方で、欧州子会社MBOグループの売上高取り込み期間の違いが減収要因となった。

中華圏市場の売上高は同1・9%減の47億700万円。

ゼロコロナ政策によって営業活動や物流が影響を受けた。

その他地域の売上高は同54・6%増の34億6200万円。

インドでの経済活動回復や、証券印刷機の前年同期からの反動で大幅な増収となった。

23年3月期通期連結決算は前回予想から変更なく、売上高が同5・9%増の928億円、営業利益が同49・9%増の34億円、経常利益が同8・5%増の37億円、純利益が同52・9%減の29億円を見込む。

液体用紙容器値上げ

10月1日納入分から

日本製紙

日本製紙は7月27日、牛乳および清涼飲料向け液体用紙容器の価格改定を発表した。

対象品種と値上げ幅は、エヌピーパック12%以上、フジパック10%以上、実施時期は10月1日納入分から。

同社では「昨年11月に価格修正を表明し実施したが、その後、世界的規模で諸資材・エネルギー価格が高騰し、加えて急激な為替変動を受けている。既に弊社の自助努力のみで吸収することは極めて困難な状況になっており、今般、価格修正をせざるを得ないとの判断に至った」としている。

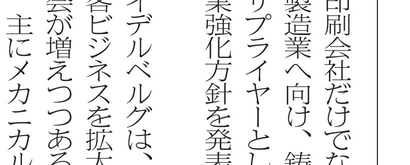
鋳造事業を強化

自社鋳造所PR

ハイデルベルグ

ハイデルベルグ・ジャパン㈱（東京都品川区）は7月14日、主要顧客である印刷会社だけでなく各種製造業へ向け、鋳造製品サプライヤーとしての事業強化方針を発表した。

ハイデルベルグは、産業顧客ビジネスを拡大する機会が増えつつあると認識。主にメカニカルエンジニア分野や、複雑なメカトロニクス製品を持つ産業界に向け、最先端のソリューションを提供し、同分野で更なる成長を目指すとする。その主力となるのがアムシュテッテン鋳造所＝**写真**＝で、同工場は最大8万5千トンの鋳物を生産する、ヨーロッパで最も効率的な鋳造所の1つと自負。製造だけでなく組立部門では、電子部品、機械製品、複雑な組み立て部品を提供している。



ルードウィン・モンツハイデルベルグCEOは、「産業顧客ビジネスで私たちハイデルベルグは、新しい成長市場における包括的な技術優位性で、その地位を築きつつある」「このようにして、私たちはまた、印刷業界以外の新しい市場に対しても、当社の技術的専門知識を、ターゲットを絞った方法で利用できるようにしている」など成果を述べている。

ワクチン4回目

▼歳を取った特権とも言えるコロナのワクチン接種、早々と接種券が届き7月中旬には4回目を終えた。1、2回目は病気の怖さもあり『少しでも早く』と予約を取るのも至難の業、多くの人がスマホにパソコンを駆使し予約作業に没頭した。無くなったトイレットペーパーもそうだが、あの騒ぎはいったい何だったのだろう。ちなみに記者は1、2回目から予約も苦労なく取れた。

▼事務所から近い事もあって、1回目から3回目まで大手町の自衛隊が設営する大規模会場で接種した。キビキビ動く隊員ばかりで〝流石〟と思った。全てモデルナで『熱は、副反応は』と聞かれても、最初から刺した箇所（筋肉）が痛むぐらいで体調に変化は無かった。効いているのかどうかも分からないほどだ。4回目はファイザーにした。掛かりつけ医で看護師さんから『接種しませんか』と聞かれたのでお願いした。国から1人打てばいくら費用が出るのだろう。ファイザーにしても打った腕だけが少し痛いだけ、熱も変化も現れなかった。

▼今流行中のBA・5は『ワクチンの予防効果が薄れる』、とはテレビ等で指摘されている。また『接種した方が身体には悪影響』と言った情報も一部に出ている。新しい種類のワクチンであり数年先の副作用まで言われたら…。しかし、国から接種券を送って来るのだから打っておこう。（山）

ダンボール関連のナイフ全て取り扱っております！
弊社へご相談下さい。
今年で創業96年、100年企業目指して
東洋刃物株式會社
http://www.toyoknife.co.jp/
（問い合わせ先）営業本部　東京　TEL　03-6328-2113
eigyoubu@toyoknife.co.jp

50th! SINCE 1971 ANNIVERSARY KONGO
感謝の気持ちを込めて
皆様と共に
KONGO も歩み続けます
抜型各種 ブランキング
コンゴーテクノロジー株式会社
www.kongou.co.jp

残暑お見舞い申し上げます

やさしさが素材です
森紙業株式会社
〒601-8441 京都市南区西九条南田町61番地

福野段ボール工業株式会社
代表取締役社長　相羽伸一
埼玉県草加市栄町一丁目一番六号
電話　〇四八（九三六）五一八一
営業部　〇四八（九三六）五一八三

全国段ボール工業組合連合会
理事長　大坪　清
〒104-8139 東京都中央区銀座三―九―一一 紙パルプ会館
電話　〇三（三二四八）四八五一
FAX　〇三（五五五〇）二一〇一
https://www.zendanren.or.jp

東日本段ボール工業組合
理事長　中橋光男
東京都中央区八丁堀四―一―四
TEL〇三―三五五一―六一一一

中日本段ボール工業組合
理事長　高橋秀治
愛知県名古屋市中村区竹橋町五―五 さかえビル四階
TEL〇五二―四五一―二七七五（代表）
FAX〇五二―四五一―二八四八

西日本段ボール工業組合
理事長　大坪　清
大阪市中央区内本町1丁目3番5号（いちご内本町ビル）
電話〇六―六九四一―五三二一
FAX〇六―六九四一―五三二七

南日本段ボール工業組合
理事長　児島圭多朗
福岡市博多区博多駅東二―四―一六 福泉第一ビル
電話〇九二―四七一―〇一六〇
FAX〇九二―四七一―八一六〇

公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事　長谷川一郎
〒104-0042 東京都中央区入船三―一〇―九 新富町ビル四階
電話〇三（三五三七）六八二二
FAX〇三（三五三七）六八二三

2022年
おかげさまで創業67周年
包むを軸として新しい価値を愛と夢をもって創造する会社
株式会社 高木包装
本社 〒639-2122 奈良県葛城市はじかみ74番地2
大阪オフィス 〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 ブリーゼタワー
株式会社 パックウェイタカギ
本社 〒639-2122 奈良県葛城市はじかみ74番地2
東京オフィス 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-4 oak神田鍛冶町7F

SAKATA INX
ビジュアルコミュニケーションテクノロジーの創造
サカタインクス株式会社
代表取締役 社長執行役員　上野吉昭
大阪市西区江戸堀一―二三―三七

～残暑お見舞い申し上げます～
アニロックスロールのレーザー光洗浄
㈱キヨシ・ネットワーク
東京都青梅市今井2―708―5
TEL　0428（32）1390

段ボール紙器機械設計製造販売
株式会社 林鉄工所
大阪市鶴見区放出東二丁目二〇―十二
TEL〇六―六九六一―四五九七
FAX〇六―六九六一―七二六〇
http://www.eonet.ne.jp/~hayashiironworks

東京抜型工業会
会長　田中正明
会員一同
東京都墨田区堤通1―6―4 ㈲田中抜型製作所内
TEL 03―3614―6601
FAX 03―3619―9569

有限会社 田中抜型製作所
代表取締役　田中正明
東京都墨田区堤通1―6―4
TEL 03―3614―6601
FAX 03―3619―9569

NTI
日本東海インダストリアルペーパーサプライ
代表取締役社長　武藤　悟
〒一〇一―〇〇六二 東京都千代田区神田駿河台四―六（御茶ノ水ソラシティ 九階）
電話　〇三（六六六五）〇三〇一
FAX　〇三（六六六五）〇三四九